

V.G 槻 輪 だ よ り

会 報 第 1 3 4 号
 発行日 平成27年12月1日
 発行・編集 V・G 槻 輪
 代 表 者 大 岡 成 一
<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

わがまち紹介

“京都の奥深さが見えてくるまち山科”

“毘沙門堂門跡”

平成27年11月19日(木) JR山科駅前に集合
 順路・JR山科駅→毘沙門堂→参拝拝観
 沢ノ川添えハイキング
 ↓山科疎水路↓山科駅
 その他・毘沙門堂門跡
 では堂内の見学や動く
 屏風絵等説明を住職に
 丁寧にして頂きました。
 有難う御座いました。

山科の変遷

山科一帯は、すでに平安時代に山城国宇治郡山科郷という名で呼ばれていました。

古くは縄文時代からの足跡が今も残されており、芝町遺跡や中臣遺跡から発掘された土器石器類、万葉ロマンの世界をしのげる鏡山・天智天皇陵のほか、平安時代から存在し、数々の伝説を秘める有名社寺や中世に広大な寺内町を築いた山科本願寺跡、江戸時代の風景を思い起こさせる旧東海道の遺跡

など、脈々と受け継がれてきた歴史をたどるの
 大変恵まれた地です。
 また、山科は大石内蔵助が討ち入り前に隠れ住んでいたといわれており、赤穂義士にまつわる史跡の数々が今日まで伝えられています。こうしたことから、毎年12月14日には、討ち入りなどを再現する「山科義士まつり」が多くくの区民の参加のもと盛大に開催されています。

行政区の変遷としては、宇治郡山科町が昭和6年に京都市東山区に編入されました。その後、昭和26年の支所開所を経て、昭和51年10月に東山区からの分区分・独立により現在の山科区となり、平成18年に区誕生30周年を迎えました。

毘沙門堂門跡

毘沙門堂は天台宗五箇山を開かれた伝教大師の自作で、延暦寺根本中堂のご本尊薬師如来の余材をもつて刻まれた



毘沙門堂門跡寺号の碑

山を開かれた伝教大師の自作で、延暦寺根本中堂のご本尊薬師如来の余材をもつて刻まれた

ご本尊に京の七福神のひとつ毘沙門天を祀ることからこの名がある。
 創建は大宝三年(703年)文武天皇の勅願で僧行基によつて開かれた。当初は出雲路(上京区・御所の北方)にあつたことから護法山出雲寺といつた。その後、たび重なる戦乱から苦難の道をたどり、寛文五年(1665)、山科安朱の地に再建。後西天皇の皇子公弁法親王が入寺してより門跡寺院となつた。伝教大師が唐より将来された鎮将夜叉法という行法は、天台五箇大法のひとつとして当門跡だけに伝わる秘法である。ご本尊の毘沙門天

と伝えられる。商売繁盛・家内安全にご利益があり、一月初寅参りには福笹が授与され善男善女で賑わう。
 宸殿襖絵
 宸殿に上がり襖絵の説明を受けました。見る角度によって机の長さや顔のふくらみ等が変化して見えるだまし絵という技法です。秀吉の大政所高台尼公が大坂城内で念じていた弁才天を庶民福樂の為に当地に勧請したという高台弁財天(堂)が宸殿から見え、紅葉の庭園の中でひとときわさえています。

境内の諸堂は近世の門跡寺院特有の景観を伝える貴重な遺構であり、その多くが京都市の有形文化財に指定されている。紅葉の名所です。
 庭園(晩翠園)
 晩翠園は、2つの中島を持つ池が中央に大きく広がり、池の周囲には低木が植えられています。池の北側、観音堂の脇には滝石組が組まれ、安祥寺山の谷から引き込まれた水が音を立てて流れ落ちていきます。



晩翠園回遊式庭園

京都の中でも美しい紅葉の名所です。毘沙門堂の勅使門に向かつて伸びる参道の石畳は散り紅葉が赤く敷き詰められます。仁王門への急な石段は毘沙門天王と書かれた赤い幟と赤い紅葉に迎えられるように見えます。毘沙門堂の秋は境内全体が赤く染まり、山科地区を代表する紅葉の名所で紅葉を楽しめた。

護岸の石組も大石を立てることはせず、全体として穏やかな造りとなっています。
 毘沙門堂の紅葉
 京都の中でも美しい紅葉の名所です。毘沙門堂の勅使門に向かつて伸びる参道の石畳は散り紅葉が赤く敷き詰められます。仁王門への急な石段は毘沙門天王と書かれた赤い幟と赤い紅葉に迎えられるように見えます。毘沙門堂の秋は境内全体が赤く染まり、山科地区を代表する紅葉の名所で紅葉を楽しめた。

2015年12月度行事予定

“阪急電鉄の社名が付いたまち”：阪急正雀

日：2015年12月17日(木曜日)
 集合場所：阪急正雀駅改札口 集合時間 9:40
 訪問先：阪急正雀工場
 内容：阪急電鉄正雀工場内の見学
 10時から(約90分工場見学)
 その他：一般参加者は会員を通じて申し込んで下さい。

2016年1月度行事予定

“京都を代表する和菓子の一つを体験してみよう”
 おたべ本館

日：2016年1月20日(水曜日)
 集合場所：近鉄十条駅改札出口 集合時間：8:40
 訪問先：おたべ本館(京都市 南区西九条高島町35-2)
 内容：おたべ手づくり体験及び工場見学
 その他：手づくり材料費 600円/人必要です。